

# 女子バレーボールにおける二段トスからの攻撃の重要性

竹上 由衣 ( 京都教育大学 )

## 1. 目的

本研究の目的は、バレーボールの試合におけるチーム全体の二段トスからの攻撃が試合の勝敗に及ぼす影響を検討し、二段トス攻撃の重要性を明らかにすることが目的である。

## 2. 研究方法

(1) 対象者：2019年春の高校バレーボール大会ジャパネット杯における女子の51試合

(2) 調査方法：試合映像から二段トス攻撃及び、全体のスパイク本数をカウントした。菅野(2011)の指摘を参考に a:セッター以外があげたトス、b:アンダーハンドハンドパスで上げるトス、c:1本目の返球がネットから離れてしまったボール、d:コンビネーション攻撃が難しい位置からのトスを二段トスと判定した。また、抽出した二段トスを①失点、②トスマス、③チャンスボールになった、④リバウンド、⑤相手チームを崩した、⑥得点の6つの観点に分けて分析した。

(3) 算出項目及びデータの集計

1) 二段トス攻撃の出現率 (%)

二段トス攻撃の本数/全体のスパイク本数×100

2) 二段トス攻撃の決定率 (%)

得点の二段トス攻撃/二段トス攻撃の本数×100

3) 二段トス攻撃の効果率 (%)

(得点⑥×100+効果⑤×25-失点①×25)÷打数

上記の算出項目について、勝ちチーム及び負けチームの全試合の平均値を算出した。また、勝ち負けの差を検定するために対応のないt検定を行った。なお有意水準は5%未満とした。

## 3. 結果と考察

1) 今大会の二段トス攻撃の出現率は  $38.0 \pm 8.6\%$  であった。近年の様々なルール改正が行われる前の研究において出現率は(浜元、1969) 31%であったと報告されているが、今回はその値を大きく上回り、二段トス攻撃の重要性が示唆された。

2) 勝ちチーム ( $37.7 \pm 9.2\%$ ) と負けチーム ( $38.2 \pm 8.0\%$ ) の間で二段トス攻撃の出現率に有意差はなかった。佐藤と渡辺の研究(2015)から、1本目の返球が乱れた際に行う二段トス攻撃の出現率が低いことが勝利の要因の一つであると予想していたが、二段トス攻撃の出現率は勝敗に影響していないことが明らかになった。

3) 決定率と効果率において、勝ちチーム(決： $30.6 \pm 14.5\%$ 、効： $32.0 \pm 14.3\%$ )と負けチーム(決： $21.2 \pm 10.7\%$ 、効： $18.7 \pm 12.1\%$ )で有意な差が見られた。このことは勝ちチームは、一定の割合でみられていた二段トス攻撃の中でより多く決定し、相手を崩すことができたと考えられる。また、決定率と効果率の割合を勝ち負けで比較すると、効果率の方が差が大きく、効果率の方が勝敗により大きな影響を与えているものであったと考えられた。

## 4. 結論

本研究では、以下のことが明らかとなった

①現在のバレーボールの試合において二段トス攻撃の出現率は  $38.0 \pm 8.6\%$  であった。

②勝ちチームと負けチームにおける二段トス攻撃の出現率に有意差はなく、二段トス攻撃の出現率は勝敗に影響していなかった。

③勝ちチームと負けチームの決定率と効果率においていずれの場合も勝利の場合で高く、二段トス攻撃の決定率と効果率が試合の勝敗を左右していることが分かった。

## 5. 主な参考文献

- ・浜元盛正(1969)「バレーボール試合におけるトスの分析」, 琉球大学教育学部紀要 12 巻, 217 - 230
- ・佐藤文彦, 渡辺啓太(2015)「バレーボールにおけるレセプションが試合の結果に及ぼす影響」, バレーボール研究, 17 巻, 第 1 号, 1 - 4